

魚市場の今後のあり方専門部会について

【八戸水産アカデミー設置の目的】

漁業者、卸売業者、仲買人、学識経験者等の関係者のほか、金融、ITなど様々な分野の団体の参画のもと、当市の水産業における課題についての協議・検討、専門家を招聘しての講演会等の開催、つくり育てる漁業の推進に向けた養殖の研究など、**水産業に関する知識の向上と今後の水産業のあり方について幅広く議論することを目的に、水産業再興策の一つとして設置。**

【八戸水産アカデミー】

【八戸水産アカデミー実行委員会】

水産関係団体、学識経験者、行政による
8名の委員で構成し、水産アカデミーの
取組内容について協議

【つくり育てる漁業専門部会】

「つくり育てる漁業」の実
現に向けた諸課題の整理や
国内養殖事例の調査研究、
出口戦略も含めた事業展開
の事例調査等を実施

【魚市場の今後のあり方 専門部会】

**R7.4.30
新たに設置**

【魚市場の今後のあり方専門部会 構成メンバー】

No.	所 属	役 職	氏 名
1	八戸魚市場仲買人協同組合連合会	代表理事会長	野田 一夫
2	八戸みなと漁業協同組合	代表理事組合長	尾崎 幸弘
3	東北旋網漁業協同組合青森支所	支所長	安田 充昭
4	八戸機船漁業協同組合	監 事	秋山 貴志
5	八戸いか釣漁業協議会	会 長	谷地 充晴
6	株式会社八戸魚市場	常務取締役	林崎 孝志
7	〃	取締役市場部長	深川 正人
8	八戸水産加工業協同組合連合会	副会長	武輪 俊彦
9	八戸港廻船問屋組合	組合長	中道 栄治
10	青森県トラック協会三八支部	常務理事	飯山 眞也
11	八戸学院大学	地域経営学部長	田中 哲

魚市場の今後のあり方専門部会の目的

【魚市場を取り巻く環境】

- 魚市場に水揚げされる魚が減少している（影響：卸売業者の収益の悪化、加工原料の調達が困難、市の歳入減少）
 - 魚市場で魚を売る人・買う人、魚を運ぶ人が減っている（影響：価格形成力の低下、水揚げができない・時間がかかる⇒漁船離れ？）
 - 一部の魚市場で老朽化が進んでいる（影響：産地市場としてのイメージ低下）
 - 電気代が高くなり、魚市場の運営にお金がかかる（影響：卸売業者の収益の悪化）
- 等々の課題がある。



このままでは、この先魚市場を維持できなくなってしまうかもしれない…

【設置の目的】

関係者間で当市の魚市場が抱える課題を共有し、将来にわたって魚市場機能を維持していくために何をすれば良いかをみんなで考える場所、それが「魚市場の今後のあり方専門部会」

魚市場の今後のあり方専門部会の検討事項

《検討テーマ：魚市場機能のあり方の見直し》

【検討事項1. 水揚げ・販売形態等の見直しについて】

①主要漁業の水揚げ、販売、出荷形態の課題の整理

→まき網漁業、イカ釣漁業、底引き網漁業、沿岸漁業等において、現在行われている水揚げから出荷に至るまでの各工程における課題の洗い出しを行う。（例.漁船の水揚げ待機時間が長い、トラックの待機時間が長い 等）

②課題を踏まえた上で改善策について検討・改善策のトライアル実施

→①で洗い出した課題に対する改善策を関係者で議論。改善策（案）について、すぐに実施できるものは今漁期中に試験的に実施することも検討。

③魚市場施設の課題の整理

→第一～第三魚市場の課題の洗い出しを行う。（例.第一魚市場の老朽化 等）

④魚市場施設の効率的運用

→供用を再開した第三魚市場A棟の運用方法等について検討する。

⑤卸売業の業務改善とサービス向上による(株)八戸魚市場の経営改善

→特定第三種漁港の卸売業者が実施するサービスについて調査。調査結果等を踏まえながら、(株)八戸魚市場の経営改善に向けた取組についてアイデア出しを行う。

➡検討した見直し(案)を市及び(株)八戸魚市場に提言

【検討事項2. 買受人制度の見直しについて】

①現行の買受人制度における課題の整理

→年々買受人が減少している中、市場取引の活性化のため、また、国（内閣府）の規制改革推進会議における答申を踏まえ、買受人の新規参入を推進するにあたり、現状の買受人制度の課題の洗い出しを行う。（例.買受人として承認されるまでの期間が長い、買付基準額が高すぎる 等）

②他都市の買受人制度について調査

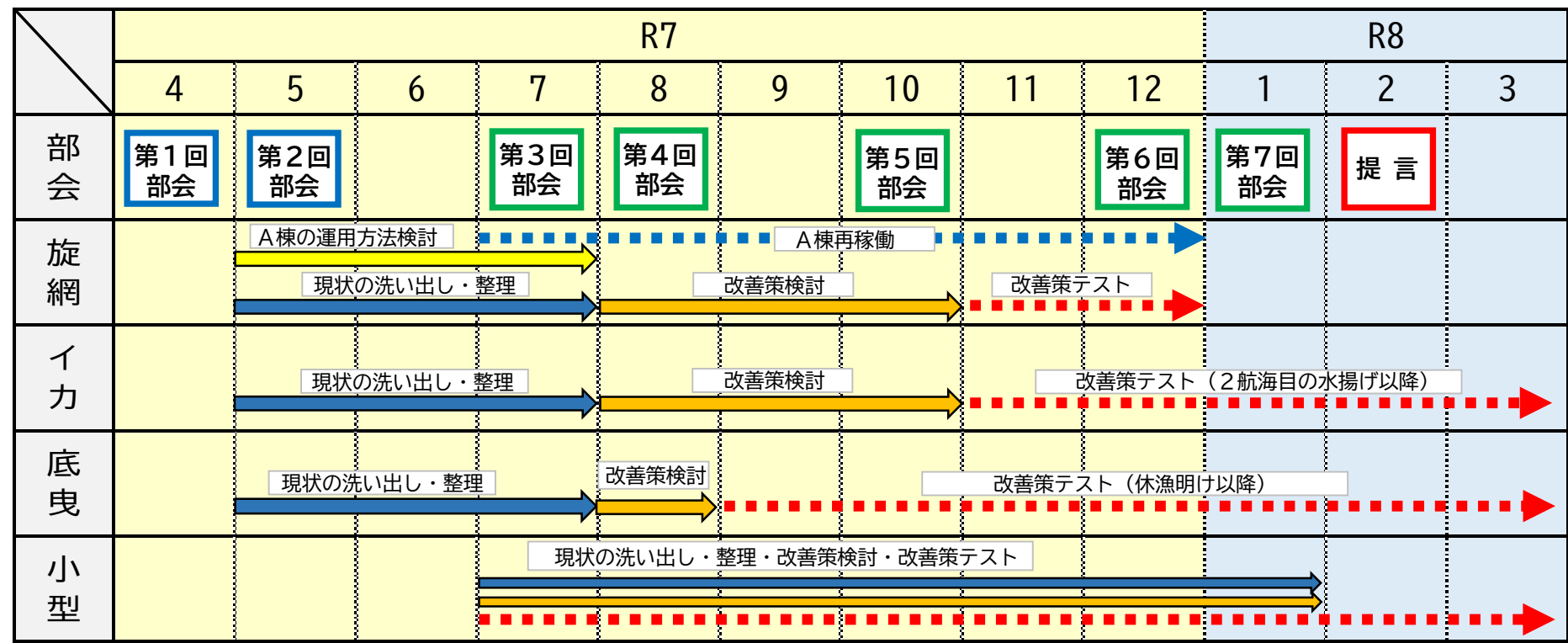
→見直しを検討するにあたり特定第三種漁港の買受人制度について調査する。

③スーパー等の小売業の買付参入による効果と課題

→現在対象外となっているスーパー等の小売業の参入について、他都市の事例も踏まえながら、効果と課題の洗い出しを行う。（例.取引の活性化が図られたが、これまで買付を行っていた地元企業が衰退した 等）

➡「八戸魚市場仲買人協同組合連合会」と連携しながら、買受人制度の見直しについて検討・見直し(案)を市に提言

水揚げ・販売形態等の見直しに向けたスケジュール



【第1回】 ・（仮称）魚市場の今後のあり方専門部会について
R7. 4. 30開催 ・ 専門部会の名称について

【第2回】 ・ 各種漁業における水揚げ・販売形態等の見直しについて
R7. 5. 23開催 ・ 買受人制度の見直しについて

【第3回】 ・ 各種漁業における水揚げ・販売形態等の課題と改善策について
R7. 7. 30開催予定
・ ㈱八戸魚市場の経営改善に向けた取組について
・ 第三魚市場A棟の運用方法について

【第4回】 ・ 各種漁業における水揚げ・販売形態等の改善策について
・ ㈱八戸魚市場の経営改善に向けた取組について
・ 魚市場施設の課題について

【第5回】 ・ 各種漁業における水揚げ・販売形態等の改善策について
・ ㈱八戸魚市場の経営改善に向けた取組について
・ 魚市場施設の課題について

【第6回】 ・ 各種漁業における水揚げ・販売形態等の改善策について
・ 魚市場施設の課題について

【第7回】 ・ 水揚げ・販売形態等の見直しに関する提言内容の確認
・ 買受人制度の見直しに関する提言内容の確認

【提 言】 ・ 水揚げ・販売形態等の見直しについて
・ 買受人制度の見直しについて

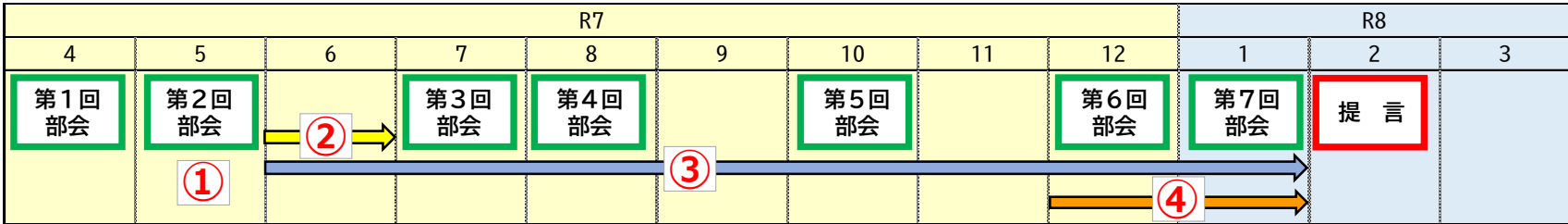
買受人制度の見直しに向けた検討項目と検討方法・スケジュール

【見直しに向けた検討項目】

- 「買付金額」 買受人として承認されるまでに6年間連続して毎年3,000万円以上の買付けが必要
➡ 昭和60年の水揚げ金額は約810億円、現在は約130億円。年間3,000万円以上の買付けは難しいのでは？
- 「期 間」 買受人として承認されるまでに13年を要する(うち6年間は3,000万円以上の買付が必要)
➡ 買受人を目指してから承認されるまで13年の期間は長すぎる？買受人を諦めてしまうのでは？
- 「対象業種」 販売(小売を除く)及び加工のため買受業務を行う者
➡ スーパー等の小売業を対象とすることのメリット・デメリットについて検討する必要があるのでは？
- 「所 在 地」 市内に事業所を有する者
➡ 市外の事業者等を対象とすることのメリット・デメリットについて検討する必要があるのでは？

【検討方法・スケジュール】

- ①第2回専門部会において見直しについて議論
- ②市水産事務所において他都市の買受人制度について調査し、結果を「八戸魚市場仲買人協同組合連合会」へ提供
- ③「八戸魚市場仲買人協同組合連合会」において買受人制度の見直しについて検討
- ④「八戸魚市場仲買人協同組合連合会」が作成した見直し(案)について専門部会で意見交換



魚市場の今後のあり方専門部会のこれまでの経過

【各種漁業における水揚げ・販売形態等の見直しに関する主な意見】

[旋網漁業]

- 水揚げ処理能力を高めていくことが今後の目標。
- 購入業者待ちではなく、水揚げ優先で対応できれば県外船の誘致にもつながるのでは。

[大中型イカ釣漁業]

- 水揚げ港の分散化が議論されているので、漁船誘致のためには漁船の待機時間を短くするなど、漁業者にとって使いやすい港づくりに取り組んでいく必要がある。

[底曳網漁業]

- セリ後半は魚価が安くなる傾向があるので、水揚げ量が多い日はセリの時間を早めるなど柔軟に対応して欲しい。
- 生産者が持つ漁獲情報と仲買人のニーズを共有していく必要がある。

【買受人制度の見直しに関する主な意見】

- 生産者・卸売業者にとって魚を買ってくれる買受人が多いほどありがたい。
- 現状の承認基準は厳しいのでは。新規参入がしやすいよう制度を見直すべき。
- 承認基準の見直しは必要だが、新規参入のハードルを下げることでリスクもあるので、既存の買受人への影響も踏まえた上で慎重に検討するべき。
- 買受人の多くはスーパー等の小売業向けに魚を買付け、加工した上で納品している。スーパー等の小売業を参入させることは既存の買受人にとってデメリットになるのでは。